

「医療側と患者」

十年以上前、総合病院に通院した時「鈴木龍様」と呼ばれて大きな違和感を覚えたことをよく覚えている。それ以後、患者中心主義の象徴として「様」で患者さんと呼ぶ病院や病院が多くなった。私は初めて「様」と呼ばれてから、呼ぶことも呼ばれたことも気持ちよく感じたことはない。患者中心主義といえは聞こ



鈴木 龍

えは良いが、それで良い医療が可能なのか大いに疑問だ。

私の心にあるのは、お互いに平等であることの大切さである。医療こそ民主主義が必要と思うのである。どちらが優位に立っても良い医療にはなりえない。患者さんになぜ説明しなければいけないのか？ それは知識が圧倒的に優位な医療サイ



治療は平等な立場で

ドと患者さんが同じ土俵の中にいるからである。お互いに協力して土俵で闘う相手は病気である。それを忘れてはいけない。患者さんは何も知らないのだからといって医療サイドが主導権をとって導く「パターンナリズム」ではお互いの協力関係は生まれてこない。

さて義務についてはどうだろうか？ 患者さんからの言葉で「健康保険料を払っていない人からしっかりとってくださーい」は興味深かった。民主主義は本来厳しいものである。基本的人権以外の権利は、義務を果たさないと得られない。だからこそ医療においての基本的人権はどこまでかという論争が必要だ。

医療と年金の徴収を税金化(必須化)しなかった政治と国民の責任は重い。税金化することで、医療費の問題がかなり解決することは意外と知られていない。健康保険の支払いなしに保健医療を受ける権利がないことは理解してもらいたい。セーフティーネットの存在意義はそこにある。何回も言うようだが民主主義は本来厳しい。患者様と呼ぶのも、呼ばれるのももういやだ。

